

水と緑の



森づくり

創刊号

2005.7
Vol.1



巻頭言

森は、おいしい水、きれいな空気、快適で安全な環境など、多くの恵みを私たちに与えてくれます。また、生命の源である森は、未来への大切な贈り物であり、県民共通の財産であります。

本県は、県土の約8割が森林で覆われ、全国第3位の森林県ですが、現在、森林の約2割が荒廃している状況にあり、水を育む緑豊かな森への再生を急ぐ必要があります。

県におきましては、本年4月から「水と緑の森づくり税」を導入し、荒廃した森林の修復を図るとともに、県民の皆様アイデアと参加により、新たな「森づくり」の取り組みを始めることといたしました。

豊かな森の保全活動や、森の恵みを身近なものとして活用する行動など、県民の皆様による主体的な森づくりが将来にわたり続いていくことを目指してまいります。

本日を契機に、緑豊かな森を次の世代に引き継ぐために、できることから始めていただきたいと思います。

島根県知事 澄田信義

「水と緑の森づくり記念イベント」知事アピールより



4月29日（みどりの日）に「水と緑の森づくり」の取り組みをアピールする澄田知事。
（「ふるさと森林公園」（松江市宍道町））

水 と 緑 の 森 づ く り

みどりの日に取り組みスタート!! 「森の誕生日」で記念イベント

4月29日のみどりの日に「2005森の誕生日ー水と緑の森づくり記念イベントー」が行われました。

オープニングでは、宍道太鼓の華々しいステージが行われ、今年度から取り組む「水と緑の森づくり」を県民の皆さまが主体となって広げていくよう、澄田知事がアピール文を読み上げました。

その後、グリーンマンショーや島根大学吹奏楽部のミニコンサート、フリーマーケット、イノシシの薫製実演などで大いに盛り上がりしました。

写真は、子ども達と一緒にヤマザクラ、コナラ、ヤマボウシなど7種類の苗木を記念植樹しているところです。



どんぐりころころゲーム

普段はめったに使わない、どんぐりを使ったゲーム。TVゲームより熱中したりして…。



竹炭細工コーナー

竹炭を加工して風鈴づくり。その音色は一級品。意外と丈夫なんですよ。



木くずで発電、焼きいも焼けた

なんと、木のチップを燃やして電気がおこせます。ついでに、ホクホク焼きいもも焼いてみました。行列ができていました。



自然と遊ぼう“竹細工”コーナー

どこにでもある竹を使って縦笛づくり。自分で作った笛で「ピー。ピー」競い合っていました。



第1回

水と緑の森づくり会議が行われました！

5月27日(金)に、松江市の島根県職員会館で初めての「水と緑の森づくり会議」が行われ、島根県の法正農林水産部長から委嘱状が渡されました。

公募により選ばれた4名を含む委員は、自己紹介の後初めての会議とは思えないほど、様々な意見を発表されました。



[委員名簿]

(五十音順)

部 門	氏 名
公 募	磯 谷 奈緒子
ボランティア	葛 西 絵里香
公 募	小早川 貞 利
地域づくり	篠 原 亨
商 工	高 橋 万 夫
情報広報	高 見 真理子
公 募	三 上 憲 昭
森林経営	山 本 和 正
公 募	和 田 譲 二
教 育	渡 利 さとみ

任期：平成17年5月27日～平成18年3月31日

県民運動の裾野を広げ、税金の500円を県民に広く還元している事を認識してもらう仕組みが必要。

これまで森林に関心のなかった人に新たに関心をもってもらう仕組みが必要。

教育関係での取り組みはとて大切。学校への重点的アピールが必要。もしくは、PTAが積極的になることが必要。

主な意見

県が提案する形での事業展開も必要ではないか？



子どもと森をふれあわせる事が大切。親子で積極的に参加できるようにしたりして興味を持たせる事が必要。

取り組みは継続が大切。

森林ボランティアが活動できる場所(山)の情報提供をする仕組みづくりが必要。

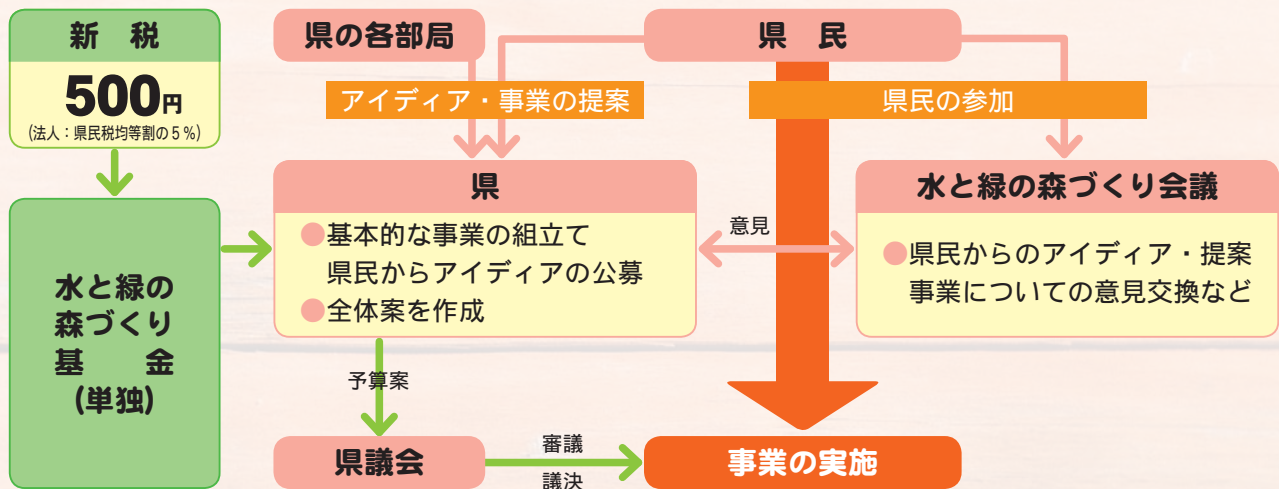
公募事業はメニューが限定的にならないようにすべき。

水と緑の森づくり事業とは…。

1 目的

広く県民が享受している森林の公益的機能が失われつつある荒廃林を再生し、水を育む緑豊かな森を次の世代に引き継ぐための取り組みを推進する。

2 事業のしくみ



3 県民参加の森づくり事業

(1) 森づくり・資源活用実践事業（公募）

予算額 40,000千円

①事業内容

県民の自主的な森づくり活動を推進するため、メニューに沿って県民自らが企画・立案した取り組みを支援する。また、県民からの具体的な取り組み事業の採択は、県民10名からなる「水と緑の森づくり会議」の意見を聞き決定する。

取り組みのイメージ

メニュー	申請事業イメージ
森づくりボランティア	ドングリ拾いと苗木づくり、本格的な森林作業 など
森づくり講座	学校単位での森林教室、職場・地域単位での森づくり教室 など
木とバイオの街づくり	木で公共施設や商店街を県民が集う空間に改装 沿道に木製ベンチ、学校や公民館でのバイオストープ利用 公園にバイオトイレ設置、木製案内標識の設置 木とバイオの利用を拡大するアイデアの実証 など
木の利用講座	間伐材を使った日曜大工教室、児童クラブでの巣箱づくり など
森林・都市交流	森林ツーリズムの試行、森や木とふれ合う仕組みの構築 など

詳しくは、県庁林業課水と緑の森づくりスタッフ・隠岐支庁農林局・各農林振興センター・各流域林業活性化センターへお問い合わせください。

(2) 森づくり推進事業（県実施事業）

予算額 14,548千円

①森づくり情報交流等

県民が参加できるホームページ開設、季刊誌発行、水と緑の森づくり会議の開催

東西イベント、支庁・各農振センター開催イベント（シンポジウム・体験イベント、県民の森林パトロール）

森づくり会議員の公募	募集期間 4月1～30日 一般公募人数 4名程度
東部イベント	4月29日 森の誕生日 (水と緑の森づくり記念イベント) ふるさと森林公園(松江市宍道町)
西部イベント	県西部地域で開催 10～11月実施
支庁・各農林振興センター開催イベント	森づくり体験など 10～11月

②森づくりプロデューサー養成派遣

森づくりボランティアや森林ツーリズムの人材養成と派遣（県民の森等で実施）



4 緑豊かな森の再生

森の再生と継承事業

予算額 74,200千円

①県民再生の森事業

荒廃森林の水を育む緑豊かな森への再生

計画面積：17年度は約400ha（5カ年で3,500ha）

対象林：重要な水源地域内で10年を越えて間伐未実施の41年生以上人工林

協定の締結：森林所有者＊県

内容：森林所有者による不要木の伐採と必要箇所への広葉樹植栽

条件：10年間の伐採制限、一定条件でのボランティア団体等の作業の受け入れ

②地域の森継承事業

上記①県民再生の森を活用し、県民が気軽に見て森とふれ合えることができる見本林を県内4流域に1箇所ずつ設定

県民再生の森事業の流れ

再生林候補選定

- 市町村協議
- 5カ年計画及びH17年度計画案
- 候補林所有者調査



H17年度実施予定地選定

- 候補林所有者への説明会
- 候補者の意思確認
- 現地調査等



- 協定締結
- 事業開始

具体的な作業方法例

列状又は群状に伐採し、伐採跡に広葉樹を植栽



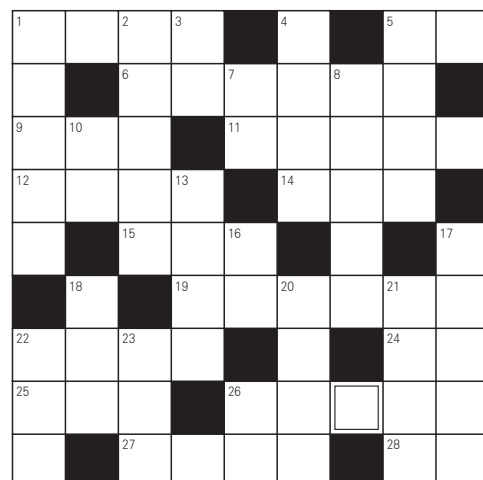
将来イメージ

水を育む機能が高い森林





4回分の答えの一字ずつを
組み合わせクイズに応募しよう!!



この季刊誌は年4回発行します。4回分の答えの二重ワク内の文字をつないだ言葉を応募してください。正解者の中から抽選で粗品をプレゼントします。応募方法は、第4号でお知らせします。

ヨコのカギ

- ①日光浴、森林浴、——浴
- ⑤鬼かどうかを見分ける決め手。カミナリ様にもある
- ⑥木を組んだ乗り物で川を流れる爽快な遊び
- ⑨漢字では鶏冠と書く。これに似た海草もあるね
- ⑪お肌の大敵、UV
- ⑫子供たちがこの帽子を被るのは夏の風物
- ⑭機を見て敏に。釣糸が引かれたらすばやくね
- ⑮暦の上では夏の始まる日
- ⑲猛毒のトリカブトからはこれができる
- ⑳お世話になった民宿の方々とシェイクハンド
- ㉑干拓事業に——申し立て
- ㉒日本より暑いヨ。マラカニアン宮殿のある都市
- ㉓夏も本番になると葉っぱは濃いこの色になる
- ㉔クロール、平泳ぎ、犬かき
- ㉕大噴火を起こした北海道の——山

タテのカギ

- ①頭に角を持つ昆虫の王者
- ②海辺の遊びの定番。目隠しと棒が必要
- ③海水浴場ではこれの丸焼きがよく売っている
- ④最近ではスプレーで書かれたものも多い
- ⑤のどが渇いても、自動販売機ではこれが切れていると買えない
- ⑦祭りで引くもの。山車と書く
- ⑧スカイ——、スキューバー——
- ⑩人をだまして金品を奪う。観光地では会いやすいかも
- ⑬行楽帰りにはいつも道路が大混雑
- ⑭夏は特に生えやすいから、期限内に食べてね
- ⑰夏に遊びすぎるとこの虫のようになる
- ⑱京都の河原で歌舞伎踊りを創始した女性
- ㉑お盆には、死者たちはここからこちらに帰ってくる
- ㉒豊後、浦賀、紀伊、壱岐といえば
- ㉓台風に乗って窓の外にこれを打ち付ける
- ㉔火山灰が積もってできた、——台地
- ㉕五条大橋で牛若丸が吹いたもの

季刊誌の 愛称募集!!

今回創刊したこの季刊誌「水と緑の森づくり」の愛称を募集します。この季刊誌は、事業や制度の情報提供や、各地域での森づくり活動などを紹介し、これまで森林に関心のなかった方々にも、少しでも山に立ち入っていただき、その役割を理解し、恩恵を受け止めていただけるよう、年4回発行することになっています。応募方法はハガキ1枚につき1作品とし、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入のうえ、県庁林業課水と緑の森づくりスタッフまで郵送してください。

応募締め切りは平成17年9月末日(当日消印有効)です。
(例：もりもりページ)

採用された方は、本誌で紹介し、粗品をお送りします。



を植えよう

ヤマボウシ (ミズキ科)



島根県内の山でふつうに見られる落葉広葉樹です。6月に入るとヤマボウシが花をつけ始めます。水平に張り出した枝に、白い大きな花をたくさんつけるので、遠くからでもよく目立ちます。この4枚の白い花びらは「飾り花」と呼ばれるもので、ほんとうの花ではありません。総苞片と呼ばれる部分が変化して花びら状になったもので、実を結ぶほんとうの花は、中央部にかたまっている黄色の小さな花です。

秋になると、長い柄の先に集合果と呼ばれるビー玉大の赤紫色の実をつけます。この実は大変おいしいので、ぜひ一度食べてみましょう。この実のことを、島根県ではオツキ、オツケ、ウツクなどと呼び、昔は子供たちが好んで食べたものです。また、この実はツキノフグマの好物でもあります。

高さ10メートルぐらいになる高木で、材は堅く木槌(づち)や道具の柄などに利用されます。ヤマボウシ(山法師)の名は、中央の集合花を法師の頭に、4枚の総苞片をけさに見立ててつけられたものです。秋には美しく紅葉し、最近では公園などにも植えられるようになりました。

編集
後記

島根県では、今年4月から始めた「水と緑の森づくり」の取り組みを広く県民の皆さまにご理解いただくために、季刊誌『水と緑の森づくり』を創刊しました。この季刊誌は年間4回発行する予定です。県内各地域での森林を守るボランティア活動や、県産の木を使う取り組みなどがありましたら、お知らせください。この季刊誌で情報提供し、「水と緑の森づくり」の取り組みを県内全域に広げていきたいと思います。